

令和2年度決算の概況

(1) 総括事項

令和2年度においては、「岡山市下水道事業経営計画2016」に基づき、下水道事業の持続的な運営を図りながら、市民の生活環境や水環境の改善を図り、快適で安全なまちづくりに貢献しました。

特に浸水対策については過去の浸水被害を踏まえ、「岡山市浸水対策の推進に関する条例」に基づき雨水幹線やポンプ場などのハード整備を進めるとともに、事業者への開発行為等に伴う雨水流出抑制施設設置の助成、止水板設置補助制度などにより、市民、事業者と連携した総合的な浸水対策を進めています。

今後も引き続き、浸水被害の大きかった地区への重点的な浸水対策に取り組むとともに、下水道未普及対策や耐震・長寿命化対策などについても効率的、計画的に実施します。

ア 下水道による汚水処理の状況

事 項	令和2年度	令和元年度	増 減	対前年度比 (%)
処理区域内人口 (人)	487,869	485,720	2,149	100.4%
水洗化戸数 (戸)	162,243	160,231	2,012	101.3%
年間有収水量 (千 m^3)	53,374	52,908	466	100.9%
普及率 (%) ※1	68.0	67.6	0.4	—

※1 以外は農業集落排水事業を含む。

イ 建設改良事業

a 浸水対策

浸水被害の軽減を図るため、平成30年度に着手した浦安排水区の浦安11号幹線雨水管築造(第1期工事)が順調に進捗しています。さらに、今保排水区のポンプ場の令和5年度供用開始に向け、詳細設計を完了しポンプ場の建設工事に着手しました。

また、豪雨に対する初期対応の迅速化を図るため、芳田地区等のゲートの遠隔操作化に継続的に取り組みました。

b 未普及対策

笹ヶ瀬右岸幹線及び、庭瀬・妹尾・撫川・北方・横井上・檜津地区など旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区などの整備や、江並・今在家・東平島・神下・乙多見・西大寺浜地区など旭川以東の岡東及び吉井川処理区などの整備に取り組みました。また、高松・吉備津・牟佐の新規地区の実施設計を実施しました。

c 耐震化・長寿命化対策

国の長寿命化支援制度を活用した岡東浄化センターと岡東ポンプ場の耐震化・改築更新に取り組むとともに、旭西排水センター及び笹ヶ瀬ポンプ場、岡南ポンプ場などの改築更新に継続して取り組んでいます。

また、老朽化した管きよの更生工事、重要な幹線管きよの耐震診断に取り組みました。

ウ 維持管理

本年度は約6,222万m³の汚水を処理するとともに、市街地の雨水を排除しました。処理場やポンプ場においては日常の管理の中でコストを意識した運転や、季節別管理運転のような下水道の付加価値を高める運転を行うとともに、点検や整備、修繕を計画的に行いました。また、管きよについても計画的に点検調査を行うとともに、清掃や修繕を行いました。

エ その他の取り組み

大規模地震・津波を想定した6回目の下水道BCP訓練を令和3年1月に実施し、昨年度から導入したテレビ会議システムを活用するとともに、3密を避けるなど新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、出先機関との連絡体制の確認、被災施設の調査訓練を行いました。

また、若手職員を中心に結成した広報戦略推進班が、コミュニティーサイクル「ももちやり」に桃太郎マンホールなどをデザインした車輪カバーを取り付けたり、ポスターを作成

するなど、下水道のPR活動を行いました。令和元年度に作成した下水道PRポスターは「令和2年度GKP（下水道広報プラットフォーム）広報大賞」行政部門賞を受賞し、職員の士気向上につながりました。

オ 財政状況

本年度の財政状況については、収益的収支では、事業収益 19,380,149 千円に対し、事業費用 19,380,149 千円で、この結果、収支差引 0 円となりました。

次に、資本的収支では、収入額 23,320,485 千円から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 533,203 千円を除くと、当年度の収入が 22,787,282 千円、これに対する支出額は 30,170,169 千円であり、収支差引 7,382,887 千円の不足額は、内部留保資金などで補てんしました。

以下のグラフは下水道事業の決算状況を性質別に示したものです。

